

1. 第2回懇談会での 意見と対応

意見に対する対応

第2回懇談会での意見	対 応
・自然環境への配慮に関して、懇談会と環境アセスメントの位置付けが不明	豊岡道路の事業の流れ及び環境調査の位置付けの説明
・インターチェンジが必要かどうか懇談会で議論する	必要性について整理
・コウトリへの配慮に関して、鹿児島県出水市のツルの事例が参考になるかもしれないという助言	鹿児島県出水市の情報収集及び整理(ツルの事例紹介)
・農業従事者への配慮が必要	地域の農業に対する取り組みを整理して議論
・懇談会の時点から景観に配慮し、検討する必要がある	概略ルート(案)レベルでのイメージスケッチを作成して、提示

豊岡道路の事業の流れ

基本計画決定

平成9年2月に旧豊岡市～八鹿町までの区間(豊岡道路、日高豊岡南道路、八鹿日高道路)が「一般国道の自動車専用道路として整備される路線」の指定を受ける

アンケート調査

平成19年8月～9月にかけて、豊岡市全世帯を対象として、豊岡道路の計画に関するアンケート調査を実施

- ・但馬地域の現況道路に関する設問
- ・豊岡道路の計画において配慮すべき事項に関する設問
- ・豊岡道路に期待する事項に関する設問
- ・自由意見

豊岡道路懇談会

学識者、市民代表、民間団体、行政機関、事業予定者が一体となり、豊岡道路の計画(みちづくり)について、よりよい計画となるよう、審議して取りまとめる懇談会を開催

- ・但馬地域の現状と課題
- ・豊岡道路の概要
- ・豊岡道路に求められる機能及び整備効果の検討
- ・計画上のコントロールポイントと配慮事項の抽出
- ・概略ルート(案)の検討
- ・とりまとめ(配慮事項等)

概略ルート(案)の決定

アンケート結果及び懇談会の結果を受けて、事業者が概略ルート(案)を決定

環境影響評価及び都市計画手続き

法令等に基づく手続きを実施

- ・大気質・騒音等の生活環境項目、植物・動物等の自然環境項目、景観等について、調査※、影響予測・評価、環境保全対策の検討を実施
- ・都市計画手続きを実施

※: 詳細な環境現地調査を実施

都市計画決定

事業化

整備効果や費用対効果を検討し、事業化の可否を決定

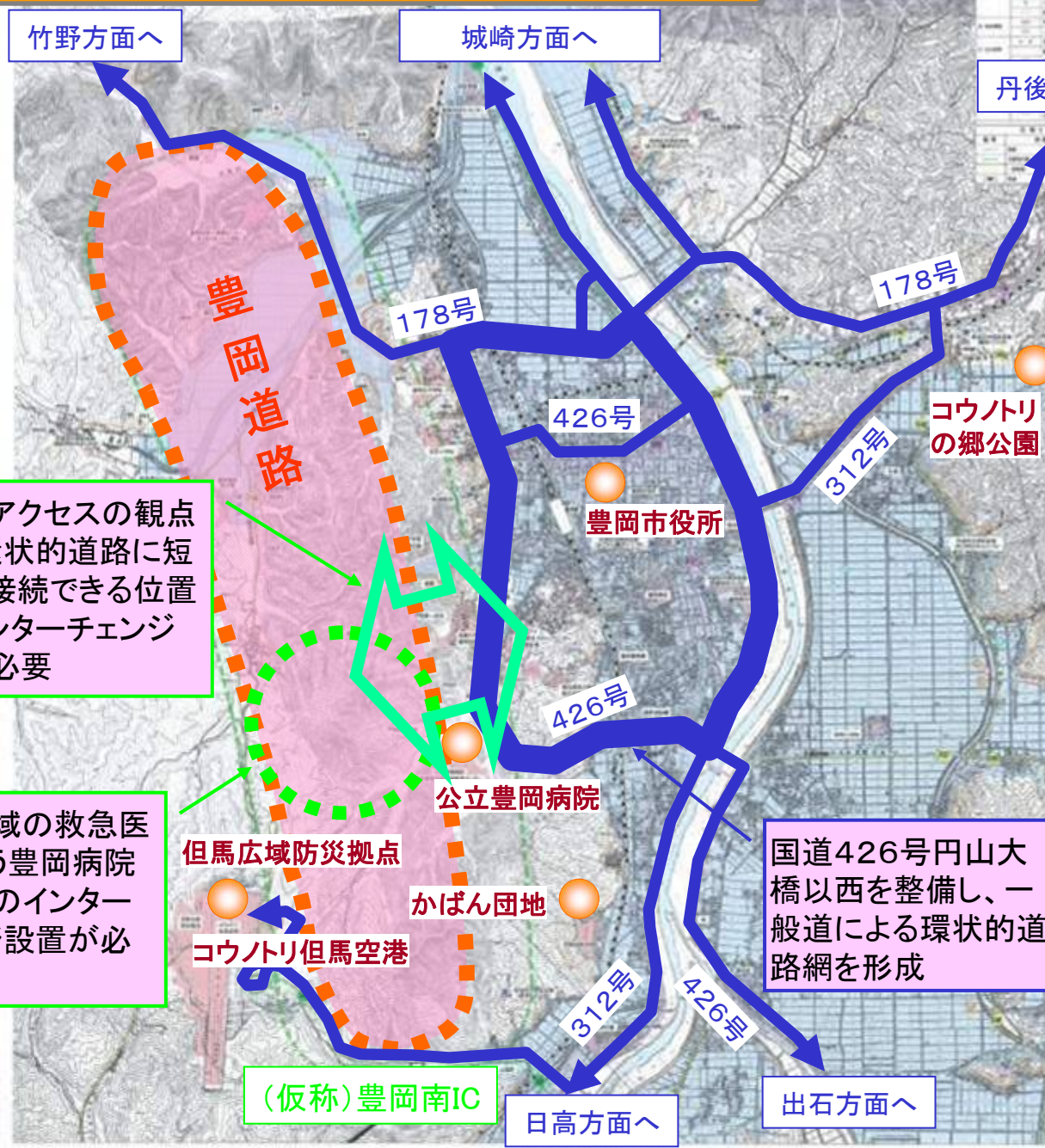
測量・調査・設計・用地交渉

工事着手

供用

※現段階は豊岡道路懇談会であり、具体的な設計、環境調査等は今後実施する。
※懇談会実施後も、住民の意見を計画に反映させるため、意見書の受け、地元説明等を随時実施する。

インターチェンジの必要性



市街地アクセスの観点から、環状的道路に短時間で接続できる位置へのインターチェンジ設置が必要

但馬全域の救急医療を行う豊岡病院付近へのインターチェンジ設置が必要

但馬広域防災拠点
コウノトリ但馬空港

かばん団地

国道426号円山大橋以西を整備し、一般道による環状的道路網を形成

将来の道路網
○豊岡道路の供用
○一般道による環状的道路網形成

整備効果
○移動時間の大幅短縮
○通過交通の排除により、市内交通の渋滞緩和、事故減少等、交通の円滑化
○災害時、積雪時に機能する道路が存在

課題
○豊岡道路から市街地や観光地に向かう主要な一般道へのアクセスが不十分
○但馬全域の救急医療を行う豊岡病院がインターチェンジから離れている
○豊岡南ICから環状的道路間の国道312号の付加軽減が不十分

インターチェンジの必要性
○豊岡道路から環状的道路に短時間でアクセスでき、かつ、豊岡病院に近い位置へのインターチェンジ設置が必要

貴重な鳥類生息環境での道路計画の事例(鹿児島県出水市)

出水市の模型実験等で分かったこと

(南九州西回り自動車道:ナベヅル・マナヅルの事例)

- 模型設置後1～2週間でねぐらから餌場まで(中距離移動)の飛行経路、採餌等の行動は元に戻った。
- 中距離移動の平均飛翔高度は、模型設置時64m、模型非設置時53m、最低飛翔高度の平均は、模型の有無にかかわらず39m。
- 工事に関する影響はほとんどない。
- 車両とツルの離隔が概ね50m以下であると、警戒、飛立等、ツルの行動に影響があった。
- 照度が低ければ、照明による影響はない。

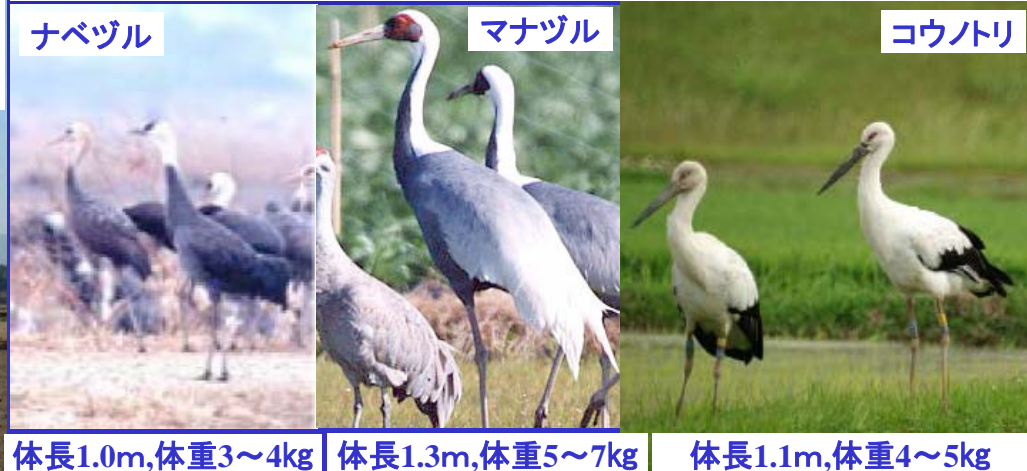
※ツルの事例がコウノトリにあてはまるかどうかは不明である。

鹿児島県出水市の模型実験
鹿児島県のツルの渡来地は特別天然記念物
ナベヅル・マナヅルは種の保存法による国際希少野生動植物種



出水市のツルと豊岡のコウノトリとの相違

	ナベヅル・マナヅル	コウノトリ
地域での個体数	ナベヅル約10,000羽、マナヅル約2,500羽	19羽+α(飼育外個体数+20年の雛数)
分布	冬鳥、国外で繁殖	豊岡では留鳥、繁殖あり
生息環境	水田、畑、干潟等	水田、河川等の湿地等
餌	植物の根茎、小動物	小動物
飛翔高度	地上39m以上(中距離移動)	地上20~30m(短距離移動)地上40m(中距離移動)
営巣箇所	国外で湿地の地上(高いところにはとまらない)	地上12m程度の人工巣塔
ねぐら	共同ねぐら(人工)	単独またはつがい



ナベヅル 体長1.0m,体重3~4kg

マナヅル 体長1.3m,体重5~7kg

コウノトリ 体長1.1m,体重4~5kg

写真:鹿児島県国道事務所資料、豊岡河川国道事務所資料等

農地に関する配慮

アンケート調査・懇談会での農地に関する意見

<アンケート調査結果（28件の自由意見）>

- ・ 農道、農地を大切に。
- ・ 住宅地、農地を潰すことは可能な限り避け、山林を選ぶべきである。
- ・ 農地の保全を考えてほしい。
- ・ 林業、農業もしっかり残し、若者も働けるように考えていきたいので、もう一度、将来を見すえた道路計画を立て直してほしい。

<懇談会意見>

- ・ 農地への支障を減らして欲しい。
- ・ 減農薬で取り組み、ブランド米となっている田圃は特に配慮が必要。
- ・ 道路整備により農地の価値が下がる可能性がある。

地域の農業に対する取り組み(コウノトリ育む農法)



コウノトリ育む農法実施箇所

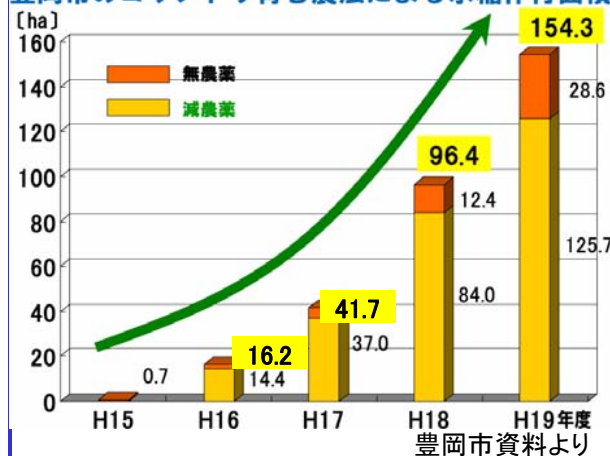


図の範囲では、約20名の生産者がコウノトリ育む農法を実施(合計2.4ha)

コウノトリ育む農法

- 無農薬・減農薬等により、安全で安心な作物作りと動物との共生を実現する農法で、稲作が主である。
- その耕作面積は、豊岡市では平成15年には0.7haであったが、平成19年には154haと年々めざましく広がっている。
- コウノトリ育む農法では、稲の収穫量は10～15%減少するが、販売単価が上がるため、**農家販売額は20～40%増加する。**(但馬県民局資料より)
- 豊岡市福田・森津等でもコウノトリ育む農法や冬期湛水田が実施されている。

豊岡市のコウノトリ育む農法による水稲作付面積



冬期湛水田(豊岡市福田)

景観に関する配慮

アンケート調査・懇談会での景観に関する意見

<アンケート調査結果（36件の自由意見）>

- ・ 景観を損なうと観光産業にとって大きな打撃となる。
- ・ 豊岡の景観と共存した道路を望む。
- ・ 自然の景観を残し、静かな街を目指してほしい。
- ・ 自然にマッチした絵になる道路づくり。
- ・ 但馬の風情を思わせるレイアウトやロケーション

<懇談会意見>

- ・ 景観に配慮してほしい。
- ・ 懇談会の段階で、ぜひ景観について考慮する事項を整理すべき。

景観検討の流れ

1. 概略ルートのご検討 比較ルートのご検討 路線決定

基本的考え方

- ① 視界や視野について、視界の遮蔽や、空間の狭隘さを軽減する。
- ② 構造物により生まれる陰影の影響に配慮する。
- ③ 景観資源の保全・活用を図る。

地形は極力さわらず、有形の資源は保ち活かす。



2. 構造物のご検討 構造、規模、構造物の概略デザイン (形状、色彩、素材等)



3. 詳細ご検討 構造物のデザイン 付属物のデザイン

概略ルート検討における景観整備上の配慮事項（案）

概略ルート上の地形等の条件		景観整備上の配慮事項
平地	一般(高架の場合)	空間の分断の影響、視界の阻害、 圧迫感、煩雑感や陰影の影響
	田畑、住宅近傍、 集落近傍	日照・日陰（季節・時間）の影響 生活圏・地区コミュニティへの影響、集落から田畑への眺望
	交通路	一般の道利用者の見通し
谷渡り	一般(高架の場合)	谷筋と計画道路の交差角度 谷の空間への影響、圧迫感や陰影の影響
	田畑、住宅近傍、 集落近傍	日照・日陰（季節・時間）の影響 構造物による集落への陰影の影響、谷空間全体の眺望
	道路上	道路軸との交差角度
川渡り		流軸横断の角度
山地・台地	稜線	稜線の連続性
	山腹・山裾・山端	地形改変の影響
切土・盛土		地形改変の影響、のり面の緑化回復等への配慮
トンネル坑口		緑化等の配慮、道路利用者の快適性の配慮
景観資源の 保全・活用		道路外観、道路内観の質を高める観点